

平成 27 年 5 月 22 日

## \*西伯耆の廻國塔

鳥取県米子市西福原 5 丁目 4 - 4 8

中村栄嗣郎

### 1、廻國塔と六十六部

納経塔の一種。石碑の正面に「奉納大乘妙典、日本廻國、六十六部供養塔」の文字を彫り「天下和順 日月清明」などの文字を添える塔のこと。

下部には廻國した行者の住所氏名と、造立の年月日を記す。多くは自然石で造られているが、普通の墓石と同形のものもあり、古くは地藏菩薩像に彫りこんだものもある。

#### ●日本国語辞典（小学館）ろくじゅうろくぶ【六十六部】

①全国 66カ所の霊場に一部ずつ納めて回るために書写した、66部の法華経。またそれを納めて回る行脚僧。室町時代に始まり、江戸時代には僧侶のほか、鼠木綿の着物に同色の手甲・甲掛・股引・脚絆を付け、仏像を入れた厨子を背負って、鉦（かね）や鈴を鳴らして米銭を請い歩いた者をいう。六部。\*甲陽軍鑑「六十六部の聖とつれて奥州・出羽・関東其の他所々を修行し給う。」

\*真俗仏事編「廻國納経。六十六部の納経の人、今の世甚だ盛んなり。是北条の時政前生納経の事より起これり」 \*浄瑠璃・神霊矢口渡「願うふは弥陀の誓願力、六十六部廻國に姿をやつす南瀬の六部」

2、大乘妙典とは法華経のこと。中国天台宗の創始者智顛（538~597）が釈尊の説いた全仏教経典を5段階に分別し、五時説法を唱えた。釈尊は華嚴経、阿含経、方等経、般若経、最後に法華経をとえられた。智顛はこの法華経を最高の経として天台宗をおこすのである。日本では日蓮が法華経を最尊・最上の経として「南無妙法蓮華経」の題目をとえらる。古来法華経には不思議な神力が宿るとされ、修験道でも法華経は必須の経巻であった。ちなみに観音経は法華経25番の経である。

66の國とは畿内・7道の合計66の國をいい、また日本全国の意にも用いる。

### 3、六十六部の日本廻國の信仰はどこからきたのか。

江戸中期の国学者天野信景の随筆『塩尻』によれば、鎌倉幕府の創始者源頼朝(1147~1199)や、頼朝の妻となった北条政子の父親であり、頼朝亡きあとの鎌倉幕府の初代執権となった北条時政(1138~1215)は前世で廻國納経をおこなった六部であったという。

ちなみに頼朝は伊豆に幽閉されている時代、20年にわたって毎日法華経を読誦していたと云われている。ここから前世の徳によって貴頭の身に生まれ変わったという信仰が生まれた。そのため来世の変身を願って、日本全国66か国の著名な社寺に大乘妙典を奉納巡拝する風習が元禄・享保のころ盛んであったと述べている。また『太平記』によれば北条時政が66ヶ国の霊場に法華経を奉納し、「日本の王」となったと記されている。

資料37番「大山・分かれ地蔵」の地蔵菩薩像は、嘉永7年(1854)に建立されているが、これを寄贈したのは廻國行者である。頼朝公千年供養として建立し、今も頼朝地蔵と呼ばれている。

法華經の現世利益の教えと、神仏習合の思想がうまく混合して、輪廻転生の人生から一步踏み出して、生まれ変わった来世は総理大臣を夢見ることができる、壮大な巡礼修行であったことが、廻國塔から浮かび上がってくる。

#### 4、山陰の廻國行者・霊場

六十六部が山陰で訪ねて歩く神社仏閣は、石見の南八幡神社、出雲の出雲大社、隠岐の焼火(タクヒ)神社、伯耆大山寺、因幡の一の宮である宇部神社がある。米子市内では大山寺が法華經を納経する聖地であったために、淀江から佐摩・尾高・箕蚊屋地域に廻國塔が多い。米子市内で17体、淀江で5体、日吉津で2体確認できる。大山寺には三寶蔵という法華經を納めた筒を入れる穴の開いた小さな蔵が今もある。

#### 5、廻國行者の関所札

徳川幕府の寺請制度のもとでは、原則的には自由な移動は禁止されている。しかし行者は特定の会所に所属し、その支配下に入ることで、ある程度自由に巡礼できる特権を得ていた。六部行者も、江戸上野寛永寺、京都仁和寺、空也堂などが元締めとなり、その免状を得ることで廻國巡礼を行った。

米子の六部は各地を歩くために、自分の菩提寺のお寺から証文をもらう。その証文には自分の住所氏名、廻國行者であること、またどこで行き倒れても、自分の身柄は当地で葬ってほしい。決して国許に遺骨など送ってもらわなくても良いという一文を添えて、身分証明書の代わりとした。これが関所手形となる。

#### 6、廻國札

江戸時代に廻國巡礼が一部の専門集団から庶民化すると、法華經の代わりにお札が使用されるようになる。廻國行者札とよばれ、中央に「奉納大乘妙典日本廻國」等の文字があり上部左右に「天下大平」「日月清明」等の文字。下部左右に行者の出身地と名前を記入したものが一般的である。この形式は廻國塔に彫られる文言と同じである。すべて木版で刷られ、この木版の札に人名を墨書した札を行者は持参する。旅先の神社仏閣に納め、また旅先で宿をお世話になった人々にお札を配って歩く。

#### 7、六部宿

六部を泊める宿も、六部の功德が頂けるという信仰から、あちこちで六部宿がもうけられた。資料43に大山寺の富山旅館の門前には六部3千人を宿泊させたという記念碑が残っている。「豆腐屋 高見茂兵衛」と名前があるが、半世紀に渡って六部行者3千人を宿泊させた善根宿の記念碑として貴重なものである。冬の大山は雪が深く、参拝には期間が限られる。数十年に渡っての歳月には、六部行者への深い理解と信仰が伺える。

また資料38、40は佐摩・今在家で六部宿を提供した宿主が廻國行者の功德にあやかって、供養塔を建てたものである。

## 8、各地の廻國塔

### ① 大山町國信地蔵（資料29, 30）尾高観音寺 六地蔵（資料1）

大山町國信墓地は堤の横にある。その墓地の一角に蓮座に立つ、高さ1米を越す石地蔵二体が安置されている。光背に「奉納日本廻國大乘妙典之供養」「宝永名七朱夏（4月）廿日浄安宗智敬白」と刻んである。側面に赤松村 五三右門とある。横の一体にも同文字を記し「願主月峰宗心」と読める。人名だけが異なる。同じ日付で二体の廻國塔は珍しい。一緒に廻國した行者であったのかもしれない。1710年は一番古い方である。大山の地蔵信仰が強く影響を与えていたことが伺える。

尾高観音寺の六地蔵の一つに、光背に「正徳二年・施主月峰円志」の文字がかすかに読みとれる。1712年とすれば、國信の廻國地蔵と尾高の六地蔵にはともに初期の廻國塔である。法名も月峰とあることから、何か関係があるのかもしれない。

### ② 尾高観音寺と大山分けの茶屋（資料2・資料35）

尾高観音寺の廻國塔、寛政4年8月とある。願主は尾高村・林蔵 脇願主 備前朋三郎 越後善吉 出雲幸松 江戸龍助 出羽仁助 となっている。1792年廻國満願にちなんで同行した廻國行者が皆で祝ってくれた廻國塔であろう。林蔵はなかなか人望があった行者であると推察できる。

大山榎原の分けの茶屋跡に一字一石塔がある。願主の名前に林蔵が何人かの廻國行者と一緒にこの塔を寄進したことが読みとれる。1795年といえは廻國が実現して3年後である。隣にある首のない地蔵も林蔵が、他の行者と一緒に寄進したものである。

### ③中福万の「供養さん」資料14

中福万には「供養さん」と呼ばれる廻國塔があり、中曾家で祀っている。ここでは、供養さんは流行病の守護神といわれ、毎年7月15日の夕方、大人や子供らは香華を供えて拝み、中曾、高田両家から接待を受ける。今もこの祭りが続いているかどうか不確かである。

### ④日吉津・石田・中間の廻國塔（資料19・5・24）

日本廻國の旅は、今日では想像もできない苦行であったと推察される。皆死を覚悟して旅立ったと思われる。日吉津海川、尾高の傍の石田、淀江町中間の廻國塔は、いずれも他国の行者の名前である。淀江町中間には、文化元年8月に施主村中で造立した廻國塔がある。その碑面には「豊後國佐伯郡床木村行者全指 於当所相果」と刻まれている。廻國の途次ひょっとして満願達成の帰途であったかもしれない。あと一月もすれば故郷九州に帰れる事を夢みながら、夏の病に倒れた行者を哀れんで、村人達の善業で建てられた供養塔であろう。尾高の石田には元文2年建立の「岩崎村塩田郡（福島県いわき市）大石理左衛門 此之所寂死 造立村中」となっている。遠く奥州の地から歩いて山陰に来て、尾高で行き倒れた行者を哀れんで、村中で建てた供養塔である。昭和10年には篤信家によって玉垣が造られている。

### ⑤赤井手の廻國塔（資料4）

赤井手に文化7年（1810）尾高村赤松屋喜平 「従文化二丑至七午六年」と刻まれた廻國

いる。米子図書館に寄贈されている『宿日記』によれば、何度か行き先を分けて目的地に向かっている。満願のあとも、廻國塔の造立にさらに数年尽力している。この旅日記によれば大山寺参拝の折、例の富山旅館にも立ち寄っている。明和9年（1772）から60年も前のことである。六部の善根宿の善業は半世紀にわたる大事業であったことが理解される。

9、廻國行者はいつまであったか。

白衣を着て、仏像の入った厨子を背負った六部の姿は、大正・昭和の初期までである。県内では岩美郡国府谷の「当村野田喜代蔵 昭和十年六月」の廻國塔が最も新しい。

明治4年（1871）10月14日に六十六部は太政官布告により禁止された。ただし巡礼が禁止されたわけではなく、同年7月22日に旅行自由となっている。その後も全国を回り法華経を納めるなどということはあったであろうが、六部とは云わなくなったようである。ここで禁止されたのは、同年10月虚無僧廃止、翌明治5年9月山伏（修験僧）廃止と、同じ流れで神仏分離、僧民分離を図り、集団化して民心を惑わすものとして廃止したようである。

10、六部殺し

●ある村の貧しい百姓家に六部がやってきて、一夜の宿を請う。その家の夫婦は親切に六部を迎え入れ、もてなした。その夜、六部の荷物の中に多量の路銀が入っているのを目撃した百姓は、金欲しさに六部を殺して亡骸を処分し、金を奪った。

その後百姓は奪った金を元手に商売を始める。田畑を担保に取って高利貸しをする等、急速に裕福になる。夫婦の間に子供も生まれた。ところが生まれた子供はいくつになっても口が利けなかった。そんなある日、夜中に子供が目を覚まし、むずかっていた。小便がしたいのかと思った父親は便所に連れていく。きれいな月夜、もしくは月の出ない晩、あるいは雨降りの夜など、ちょうどかつて六部を殺した時と同じような天候だった。すると突然子供が初めて口を開き「お前に殺されたのもこんな晩だったな」と言って、あの六部の顔つきに変わっていた。

●夏目漱石『夢十夜』

「こんな夢を見た」で始まる『夢十夜』の第三夜にも、六部殺しの民話の影響がうかがえる。夢の中で自分の子供をおぶって暗い田圃道を歩いており、子供は盲目なのに周囲の状況がよく分かっている。しかも大人びた口調で話している。「ちょうどこんな晩だったな」という子供の独り言が不気味に聞こえる。やがて山の一本杉の前に着く。「ここでお前がおれを殺したのは今からちょうど百年前だね」と背中の子供が言った。過去の殺人を自覚したとたん、背中の子供が石地藏のように重くなった。

六十六部全国巡礼地(『古事類苑』より)

番号	場所	現在地	札所	本尊	番号	場所	現在地	札所	本尊
1	下野	群馬県	瀧尾寺	千手観音	33	周防	山口県	新寺	正観音
2	上野	栃木県	一宮神社	阿弥陀如来	34	長門	山口県	一宮神社	正観音
3	武蔵	東京都	六所明神	釈迦	35	筑前	福岡県	大宰府天満宮	天神
4	相模	神奈川県	八幡神社	釈迦	36	筑後	福岡県	高良玉垂神社	釈迦
5	伊豆	静岡県	三島寺	釈迦	37	紀伊	和歌山県	千栗寺	阿弥陀如来
6	甲斐	山梨県	七覚山神社	釈迦	38	肥後	熊本県	阿蘇宮	十一面観音
7	駿河	静岡県	富士山	阿弥陀如来	39	薩摩	鹿児島県	新田	阿弥陀如来
8	遠江	静岡県	国分寺	釈迦	40	大隅	鹿児島県	八幡神社	阿弥陀如来
9	三河	愛知県	鳳来寺	薬師如来	41	日向	宮崎県	法花嶽	釈迦
10	尾張	愛知県	一宮神社	大日如来	42	豊後	大分県	由原	阿弥陀如来
11	美濃	岐阜県	一宮神社	薬師如来	43	豊前	大分県	宇佐八幡	阿弥陀如来
12	近江	滋賀県	多賀神社	阿弥陀如来	44	石見	島根県	八幡神社	阿弥陀如来
13	伊賀	三重県	圓壽寺	不動明王	45	出雲	島根県	出雲大社	釈迦
14	伊勢	三重県	朝熊岳	福1万	46	伯耆	鳥取県	大山寺	地藏菩薩
15	志摩	三重県	常安寺	正観音	47	隠岐	島根県	焼火神社	釈迦
16	紀伊	和歌山県	熊野本宮	阿弥陀如来	48	因幡	鳥取県	宇部(一宮)神社	釈迦
17	和泉	大阪府	松尾寺	千手観音	49	但馬	兵庫県	養父神社	文殊菩薩
18	阿波	徳島県	上太子神社	正観音	50	丹後	兵庫県	成相寺	千手観音
19	大和	奈良県	長谷寺	十一面観音	51	若狭	福井県	一宮神社	釈迦
20	山城	京都府	加茂大社	正観音	52	越前	福井県	平泉寺	釈迦
21	丹波	兵庫県	穴太寺	十一面観音	53	加賀	石川県	白山神社	阿弥陀如来
22	摂津	大阪府	天王寺	正観音	54	能登	石川県	石動山(ゆするぎ)	虚空蔵菩薩
23	阿波	徳島県	大徳寺	虚空蔵菩薩	55	越中	富山県	立山	阿弥陀如来
24	土佐	高知県	五台山	虚空蔵菩薩	56	飛騨	長野県	国分寺	釈迦
25	伊予	愛媛県	一宮神社	正観音	57	信濃	長野県	上諏訪大社	文殊菩薩
26	讃岐	香川県	白峰神社	千手観音	58	越後	新潟県	蔵王権現	釈迦
27	淡路	兵庫県	千光寺	千手観音	59	佐渡	新潟県	小比叡山	正観音
28	播磨	兵庫県	書寫山	如意輪観音	60	奥州	宮城県	塩竈神社	釈迦
29	伊勢	三重県	一宮神社	釈迦	61	常陸	千葉県	鹿島大社	釈迦
30	備前	岡山県	吉備津宮	阿弥陀如来	62	下総	千葉県	香取神社	十一面観音
31	備後	岡山県	浄土寺	正観音	63	阿波	徳島県	清澄寺	虚空蔵菩薩
32	安芸	広島県	厳島神社	弁財天					

米子市の廻國塔

番号	所在地 米子市内	年代	形態	銘文
1	尾高 観音寺	正徳2年(1712)10月吉日	六地藏	大乘妙典六十六部日本廻國供養 施主 月峯円志
2	尾高 観音寺	寛政4年(1792)8月吉祥日	石塔	奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下和順 日月清明 真応良伝庵主 尾高村林蔵 脇願主 備前朋三郎 越後善吉 合立同行衆 出雲幸松 江戸龍助 出羽仁助 石工五郎左衛門
3	車尾梅翁寺墓地	天保10年(1839)〇月吉日	石塔	奉納大乘妙典六十六部日本廻國満願供養 天下和順 日月清明 施主 足集利氏 本願主 当村 京屋 宗次郎 石工助蔵
4	赤井手 田んぼ横	従文化2丑至7午(1810)6年	板碑	奉納大乘妙典六部日本回国供養塔 尾高村赤松屋喜兵衛 行者施主
5	米子市 石田	元文2年(1737)7月17日	自然石	南無阿弥陀仏帰本圓宗通信士 大日本六十六部廻國 奥州之住人 岩崎郡塩田村 大石理左衛門 此之処寂死 造立施主 当村中
6	米子市 長砂	安永7年(1778)2月日	石塔	奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下大平 日月清明 長砂村 願主□□ 志施主 長砂 葭津 両飯生 目角村 宗像 観音寺
7	日下 瑞泉寺	寛政2年(1790)10月	不動明王	奉納大乘妙典日本廻國 日月清明 天下泰平 国土安全 摂州大坂行者 松雲 妙□
8	日原 庚申堂横	天明6年(1786)8月吉日	石塔	奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下大平 日月清明 伯州会見郡日原 行者 鉄心 妙心
9	二本木 墓地	宝暦5年(1755)6月吉日	位牌型	奉納大乘妙典六十六部供養 天下和順 日月清明 願主 箕村儀左衛門
10	米子市 一部堂前	元文2年(1737)10月吉日	石地藏	奉納大乘妙典経 六十六部供養塔 俗名 林原傳右衛門 法名 大安宗徹信士
11	一部 出口	宝暦14年(1764)6月吉日	石地藏	奉納大乘妙典六十六部日本廻國供養塔 天下大平 日月清明 伯州会見郡 一部村全〇
12	上新印 三部堂前	なし	自然石	奉納大乘妙典六十六部供養塔 俗名奥田利左衛門 法名徳翁法隣庵主
13	上福万 堂前	明和4年(1767)11月吉日	石塔	日本廻國六十六部供養塔 石塔施主 金屋谷邑 小原八左衛門 長昌寺
14	中福万観音堂墓地	安永2年(1773)6月吉祥日	自然石	奉納大乘妙典六十六部日本廻國供養塔 天下大平 日月清明 江戸京橋畳町 願主 盛真 施主 当村 茂平
15	福市3区観音堂横墓地	天保12年(1841)10月17日	石塔	奉納大乘妙典六十六部供養 欲自在宝殿再建供養 天下和順 日月清明 当村 市右衛門 彦三郎 願主 当所奎平次 脇願主 備前 朋三郎 出羽 仁助 紀州 和吉 助力 廻國同行
16	旗ヶ崎8区 徳謙山墓地	天保11年(1840)9月	自然石	大乘妙典六十六部供養 天下和順 日月清明 出羽國 願主 仁助 添供養 因幡新七 立合同行 世話人 平左衛門 宗左衛門 儀兵衛 当村安全 出雲幸松 出羽新之助 紀伊孫助 上州万衛門 江戸龍助 大坂重助
17	大袋 正雲寺墓地	天明3年(1783)11月	石塔	奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下大平 日月清明

番号	所在地	米子市の廻國塔 年代	形態	銘文
	日吉津村			
18	海川墓地	宝暦9年(1759)9月28日	自然石	日本廻國六十六部 法岸即口 禪人塔 口口村 俗名 治良吉 行歳四十六 施主 長谷川平口
19	海川墓地	宝暦11年(1761)正月8日	自然石	奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下和順 日月清明 奥州仙口 福岡村口
	淀江町			
20	上淀 法界さん 三界万霊塔横	宝暦10年(1760)4月5日	自然石	奉納大乘妙典六十六部扶桑廻國供養塔 天下和順 日月清明 行者 治良兵衛 造立
21	北尾 墓地	明和8年(1771)5月吉日	石塔	扶桑廻國供養塔 伯之汗入郡北尾住行者 権三良
22	北尾 墓地	天明5年(1785)11月	自然石	日本廻國塔 伯州汗入郡北尾村行者 定四郎
			補注	権三良は田牧権三郎 定四郎は田中家初代定四郎(淀江町誌) 扶桑 日本国の異称
23	西原 新墓地	安永6年(1777)冬吉日	石塔	阿扶桑廻國供養塔 浄土行者 欣求立之 金本家墓地の区画内に立っている。
24	中間 堂横	文化元年(1804)8月26日	自然石	奉納大乘妙典六十六部日本廻國 豊後國佐伯床木村 施主 村中 行者 全指於当所相果

琴浦町の廻國塔

番号	所在地	年代	形態	銘文
25	赤崎・花見潟墓地	元文6年(1741)	自然石	南無阿弥陀仏 天下和順 日月清明 日本廻國 西譽求方(河原地蔵傍お墓)
26	赤崎・花見潟墓地	寛政12(1800)8月吉日	自然石	奉納大乘妙典日本廻國供養 天下和順 日月清明 (六地藏堂内) 願主 当村 仁三郎敬白
27	赤崎・花見潟墓地	明和8(1771)12月12日	自然石	奉納大乘妙典日本廻國 天下和順 日月清明 (河原地蔵裏) 宝暦2申(1752)願主手嶋與三右衛門 頓室宗悟法子 明和八卯12月12日
28	赤崎・西地藏町路傍	寛政6(1794)8月吉日	自然石	奉納大乘妙典日本廻國供養 天下和順 日月清明 行者赤碓村 武吉不代 願主 志州(志摩國)仙蔵里園

大山町の廻國塔

29	大山町國信墓地	宝永7(1710)4月廿日	地藏菩薩	奉納日本廻國大乘妙典之供養 國信村 浄安宗智敬白 台座 施主 赤松村 五三右門
30	大山町國信墓地	宝永7(1710)4月廿日	地藏菩薩	奉納日本六十余州大乘妙典一部宛供養 國信村 願主月峯宗心敬白
31	大山町國信墓地	寛政4(1792)8月吉日	自然石	大乘妙典六十六部日本廻國供養塔 天下和順 日月清明 行者國信村 森田嘉兵衛
32	大山町福尾墓地	寛政5(1793)正月9日	台座二段自然石	奉納大乘妙典中塚 日本廻國 因州鳥取 又六 春山浄翁信士 世話人当村 甚兵衛
33	大山町所子上の墓地	文化11(1814)7月吉日	自然石	奉納大乘妙典日本廻國 一天四海 日月清明 防州伊保庄(山口県) 行者助右衛門 文化十一戌七月吉日 当村於伊助宅死 出羽(山形県)善助立合
34	大山町平・仁王堂公園	安永6(1777)4月	石塔型	廻國千人供養塔 右淀江 左淀江 宮内 斉藤与左衛門
35	榎原・分けの茶屋跡	寛政7(1795)5月吉日	三段石塔型	奉書写大乘妙典一字一石供養塔 風雨順時 含生蒙潤 願主 陸奥國會津 栗村勇三致重 加賀國金沢 青木庄治政義 同当国 尾高村 林蔵
36	榎原・分けの茶屋跡	寛政7(1795)5月吉日	首なし地藏	奉造立六拾六躰地藏尊 願主大阪某 同勇三 同庄治 同林蔵
37	大山・分かれ地藏	嘉永7(1854)5月日 源頼朝(1147~1199)	地藏菩薩 頼朝地藏	元祖 頼朝坊大法師 六十六部 貞元2(977) 千年忌供養 発願主 雲州助四郎 脇願主 常州勝五郎 芸州寅進 水戸錦司 弘化2(1845)一応玄心信士 7月朔日駿州 善右衛門 添供養 納経供養 石工 丸山村清右衛門 門人雲州林五郎光房 世話人 肥後茂兵衛 大阪栄吉 肥後義之助 西肥楠三郎 助四郎妻 喜野 惣世話人 回行中 伯州文助
38	佐摩墓地	宝永4(1707)8月吉日	自然石	奉納六十六部札宿結縁供養塔 現世安穩 後世善所 汗入郡佐摩村住 吉木武衛門政盛
39	今在家村入口	宝永6(1709)6月吉日	自然石	奉納大乘妙典日本廻國六十六部 供養 願主 西念



大山町の廻國塔

番号	所在地	年代	形態	銘文
40	今在家墓地	宝永4(1707)7月吉日	石塔型	奉供養六十六部宿結縁所 現世安穩 後生善処 施主 今在家村 小原半右衛門吉武 奉納日本廻國供養塔 佐摩村 行者ため
41	佐摩墓地	寛政8(1796)10月吉日		
42	種原・旧大山道 バス停付近	正徳3(1713)3月吉日		奉供養大乘妙典六十六部日本廻國 西休師□□ 部□□ 常陸水戸領 芳川 倉村 常殿 伯州汗入部大山郡鉦戸村 西休法師 廻國行者三千人宿施行塔 地主豆腐屋 高見茂兵衛
43	大山・富山旅館前	明和9(1772)7月吉日		
44	大山・寂靜庵	文化8(1811)6月日	宝篋印塔	右面・大山領添谷村 願主政之丞 助力千加 同行根雨宿 俗名甚左衛門 正面・奉納大乘妙典六十六部 天下和順 日月清明 裏面・為両親菩提 願成就 左面・日本廻國供養塔 石工 日野郡古市邑 奥野治右衛門 同名 新助 清五郎 (その他多数)

伯耆町の廻國塔

45	丸山観音堂	宝永4(1707)3月吉日	地藏菩薩	奉造立地藏菩薩一鉢 六十六部止宿為供養 日本廻國六十六部供養 丸山村住人 圓山仁兵衛
46	丸山観音堂	正徳3(1713)3月吉日	自然石	奉納大乘妙典六十六部日本廻國供養塔 行者 浄雲(丸山村) 願以比功德 皆及於一切 我等与衆生 皆共成佛道 (願わくはこの功德をもって あまねく一切に及ぼし 我等と衆生と皆ともに 仏道を成ぜん)
47	小林神社・手前	享保5(1720)8月吉日	自然石	奉納大乘妙典六十六部供養塔 小林村 林原佐左右衛門
48	大原薬師堂 横	享保6(1721)3月吉日	石塔型	奉納大乘妙典日本廻國六十六部供養塔 正徳6(1716)10月出 俗名 林原孫兵衛 法名 喜山宗悦 (六年かけて廻國達成)
49	岩屋谷・阿弥陀堂横	天保15(1844)7月7日		奉納大乘妙典六十六部供養 天下和順 日月清明 当村産 願主吉左衛門 願主出雲 亀蔵 立合同行中 世話人 エトウ 龍助 ヒセン 朋三郎

名和町の廻國塔

番号	所在地	年代	形態	銘文
50	倉谷墓地	安永9(1780)8月8日		奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下大平 日月清明 法名 大雄元林居士 俗名 谷野金右衛門
51	御来屋西墓地	天保6(1835)12月吉日		奉納大乘妙典日本廻國 天下大平 国家安全 願主源造 堂収 富二郎
52	木料墓地	宝永3(1706)		奉納大乘妙典 三部 為二世安樂 木料村 林原次良兵衛 (左)六十六部僧二百人一宿供養 (右)日本廻國僧六十六人一宿供養 為父母菩提
53	前谷観音堂	宝永6(1709)10月吉日		奉納大乘妙典 敬白 願以此功德 皆及於一切 我等与衆生 皆共成佛道 日本廻國之行者 前道西心
54	東高田墓地	宝永5(1708)7月吉日	供養塔古墳	奉供養大乘妙典 六十六部 東高田村 齊藤半兵衛

会見町の廻國塔

55	御内谷・雲光寺	元文5(1740)正月大吉日		奉納大乘妙典日本廻國 天長 地久 本州会見郡 宮谷貞源
----	---------	----------------	--	-----------------------------

西伯町の廻國塔

56	下鴨部 観音堂	安永2(1773)10月日		奉納大乘妙典日本廻國供養 天下和順 日月清明 藤田氏 当村 全應了提
57	坂根 観正寺	文化元(1804)12月中旬		奉納大乘妙典日本廻國供養塔 天下大平 国土安全 当村 桑名氏 行者恵作 願主□□

溝口町の廻國塔

58	父原バス停横	享保21(1736)4月上旬		奉納大乘妙典日本廻國供養塔 天下大平 国土安全 父原村住人 橋谷氏
59	溝口 観音堂	安永5(1776)10月吉日		奉納大乘妙典日本廻國供養塔 天下和順 日月増輝 伯耆州 日野郡溝口駅 願主 是心
60	添谷 観音堂	安永6(1777)3月吉日		奉納大乘妙典六十六部日本廻國 □村 行者左七
61	大坂	文化5(1808)10月吉日		奉納大乘妙典六十六部日本廻國供養塔 天下大平 日月晴朗 当邑行者 遠藤与三兵衛 (台石)遠藤伝兵衛立之
62	大坂	文化8(1811)5月日		奉納大乘妙典六十六部日本廻國 天下大平 国土安全 願主 政之丞 助力千加 冬林妙雲信女
63	間地峠	嘉永3(1850)4月吉日	地藏菩薩	南無延命地藏大菩薩 奉納大乘妙典經六十六部供養塔 石工 藤屋村 長六信□ 世話人雲州 助四郎 当郡小内河内村 本願主 伊作 脇願主 肥州 友三郎
64	福岡上代 矢倉峠	安政4(1857)11月吉日		奉納大乘妙典日本廻國供養 六十六部立 天下大平 国土安穩 五穀成就 願主 雲州 助四郎 靈位 徳三郎 世話人 石州 清右工門 十方施主 当村宗助 世話人上代 新右衛門 人夫 竹田林助

廻國供養塔 年代と地域

年代区分	観音寺	梅翁寺	赤井手	石田	長砂	日下	日原	二本木	一部	福万	福市	安倍	大袋	日吉津	上淀	北尾	西原	中間	合計	
1650																				
1651~1660																				
1661~1670																				
1671~1680																				
1681~1690																				
1691~1700																				
1701~1710																				
1711~1720	●																			1
1721~1730																				0
1731~1740				●																2
1741~1750									●											0
1751~1760								●		●				●	●					3
1761~1770									●	●				●						3
1771~1780					●		●			●							●	●		4
1781~1790						●							●				●			4
1791~1800	●																		●	1
1801~1810			●																	2
1811~1820																				0
1821~1830																				0
1831~1840		●																		2
1841~1850											●	●								1
1851~1860																				
1861~1870																				
1871~1880																				
1881~1890																				
1891~																				23

\* 創建年代不明が一体有

廻國供養塔 年代と地域

年代区分	赤崎	大山町	佐摩・今在家	伯耆町	名和町	会見町	西伯町	溝口町	合計
1650									
1651~1660									
1661~1670									
1671~1680									
1681~1690									
1691~1700									
1701~1710		●●	●●●●	●	●●●				9
1711~1720			●	●●					3
1721~1730				●					1
1731~1740						●		●	2
1741~1750	●								1
1751~1760									0
1761~1770									0
1771~1780	●	●●			●		●	●●	7
1781~1790									0
1791~1800	●●	●●●●	●						7
1801~1810							●	●	2
1811~1820		●●						●	3
1821~1830									0
1831~1840					●				1
1841~1850				●				●●	3
1851~1860		●							1
1861~1870									
1871~1880									
1881~1890									
1891									
計	4	11	5	5	5	1	2	7	40

鳥取県東部の廻國塔・巡拝塔 造立年代

旧暦	西暦	鳥取	国府	石見	福部	郡家	船岡	河原	八東	若桜	用瀬	佐治	智頭	気高	鹿野	青谷	合計
元禄	1691~1700					1				1							2
宝永	1701~1710	1		2										1		1	5
正徳	1711~1720	8				2				1				3		1	15
享保	1721~1730	5					1	2	1							1	10
元文	1731~1740	5		1		1				1			1				9
寛保	1741~1750	8		1									2				11
宝暦	1751~1760	7	1	1	1		2		1	1		1	4				19
明和	1761~1770	7	3	2		1		2	5	1					2		23
安永	1771~1780	4	2		1	2	2	1	3	1			2		4	1	23
天明	1781~1790	3		1									2	1			7
寛政	1791~1800	10						1	1	1							13
享和	1801~1810	14		2	1	4	2	3	3				1		2		32
文化	1811~1820	6	2	1		2	1	3	1		1	1					18
文政	1821~1830	8		4	2	1		1	1	2	4		2				25
天保	1831~1840	4						2					1				7
弘化	1841~1850	2	1	3		1	1		1		1						10
安政	1851~1860	2	2		1			1	1								7
文久	1861~1870																0
明治	1871~1880							1									1
	1881~1890												1				1
	1891~1900			1						1							2
	1901~	3	1			1											5
不明		6		2					2			1	2	1			14
計		103	12	21	6	16	9	17	21	9	6	2	17	7	9	4	259

①享保17年(1732)西日本大地震・一揆多発

②元文4年(1739)元文一揆

③天明3年~8年(1783~1788)天明大飢饉

④天保3年(1832)天保大飢饉